



写真1

写真2

写真3

## 「注射の部屋」が子どもたちの主体性を大切にした 「がんばれる部屋」に変わりました！

小児科 診療科長 教授 **たけに たくし**  
竹谷 健  
チャイルドライフスペシャリスト **くろさき**  
黒崎 あかね  
病棟保育士 **つばき**  
あつみ 敦美

病気の子どもたちとご家族に笑顔と安心と勇気を届けるプロジェクトの一環として2021年から取り組んで参りました、子どもたちが痛みと闘う“注射の部屋”を「がんばった!」「できた!」と思えるあたたかい部屋へリニューアルするプロジェクトが、島根大学総合理工学部建築デザイン学科の細田教授と学生との協働、クラウドファンディングへの挑戦を通して、2022年7月に想像以上の素敵な処置室として完成しました。子どもたち自身とご家族、病院を含めた大学職員およびその関係者、島根県内外の方々から、たくさんの応援メッセージとともに身に余るご支援をいただきました。そのおかげで、395人の皆様から当初の目標を大きく上回る852万円のご寄付を頂いたこと、改めて心より感謝申し上げます。

ご支援いただきました寄付は、2つの処置室の改修として、外来は注射や点滴などを楽しみながら頑張れるように、かくれんぼしている動物を子どもたちが探すことができる“森の動物たち”のデザインになりました(写真1、2)。また、病棟の処置室は、中学生や高校生も含めた長期で入院している子どもたちにより安心を届けるため、落ち着いた“海の生き物”をテーマにしました(写真3)。特に、部屋を暗くすると光る素材のステッカー(写真4)は、子どもたちへ楽しいびっくりをもたらしてくれます。

完成した環境を効果的に使用するためには、今後も子どもの主体性を大切にした関わりに努めていくのが重要だと思っています。これからも病気の子どもたちのために皆様のご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

写真4



## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

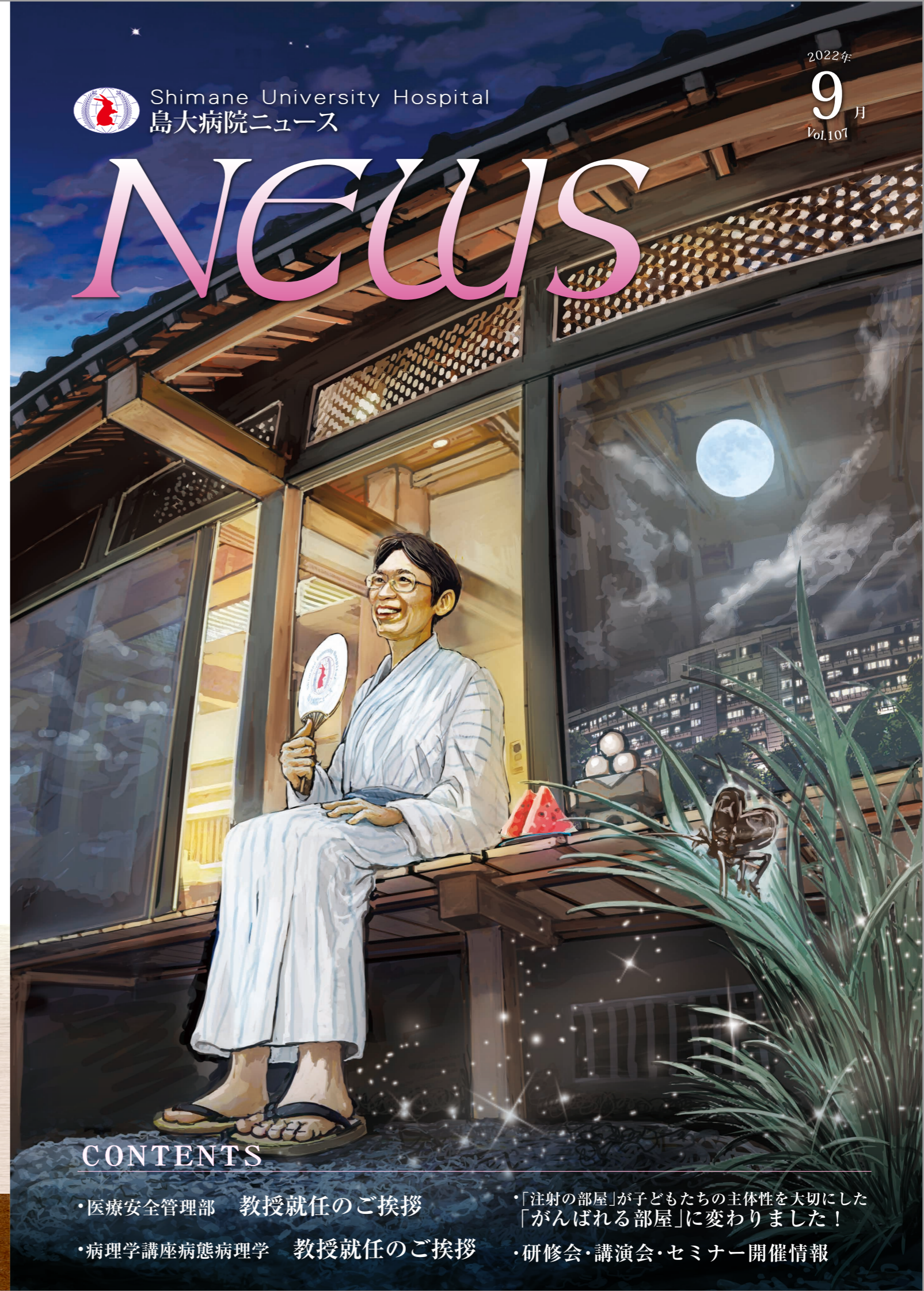
2022年9月15日～10月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/30(金) 19:30～20:50	かかりつけ医を対象とした血液疾患の勉強会	ZOOMによるWEB開催	医療 本学	島根大学医学部附属病院 (島根県造血幹細胞移植 推進地域拠点病院)
10/8(土) 13:30～15:50	厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業 スキルアップ WEBセミナー	会場及びZOOMを用いた ハイブリッド形式 会場: 未来棟4階Galaxy	医療 本学	島根大学医学部附属病院 (島根県造血幹細胞移植 推進地域拠点病院)

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



## CONTENTS

・医療安全管理部 教授就任のご挨拶

・病理学講座病態病理学 教授就任のご挨拶

・「注射の部屋」が子どもたちの主体性を大切にした  
「がんばれる部屋」に変わりました!

・研修会・講演会・セミナー開催情報

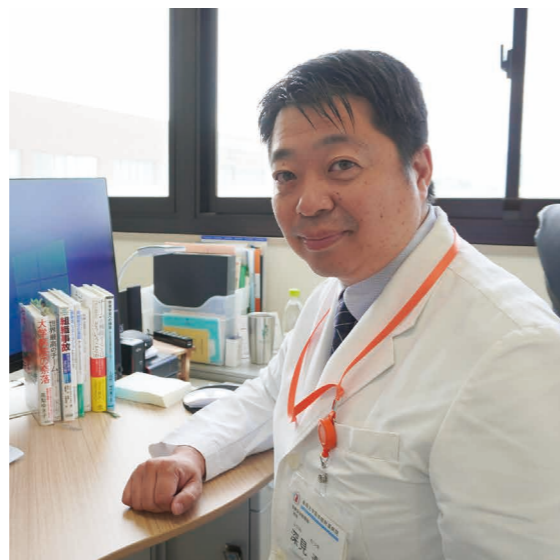


# 医療安全管理部 教授就任のご挨拶

医療安全管理部 教授 ふかみ たつや  
深見 達弥

2022年8月1日付けで、医療安全管理部の教授を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私は1975年に福岡県飯塚市で生まれ、熊本マリスト学園高等学校、福岡大学医学部を経て、1999年に福岡大学産婦人科に入局しました。2009年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校に博士研究員として留学し、帰国後、福岡大学産婦人科勤務を経て、地元である福岡県飯塚市の麻生飯塚病院に赴任しました。患者急変や産科における急変対応トレーニングに関わることで、医療の質向上の必要性と、患者安全の重要性を認識しました。



2016年に名古屋大学で開催されていた、明日の医療の質向上をリードする医師養成事業(ASUISHIプロジェクト)に参加し、医療安全に本格的に取り組みたいとの思いから、名古屋大学で医療安全の専従医師として働き始め、日々の事例対応とともに、患者安全と医療の質向上と、医療安全活動の普及に努めてまいりました。その経験を、島根でも展開するために、島根大学に赴任させていただきました。島根県や山陰地方の医療従事者や住民の方々から厚い信頼が得られるよう努めます。

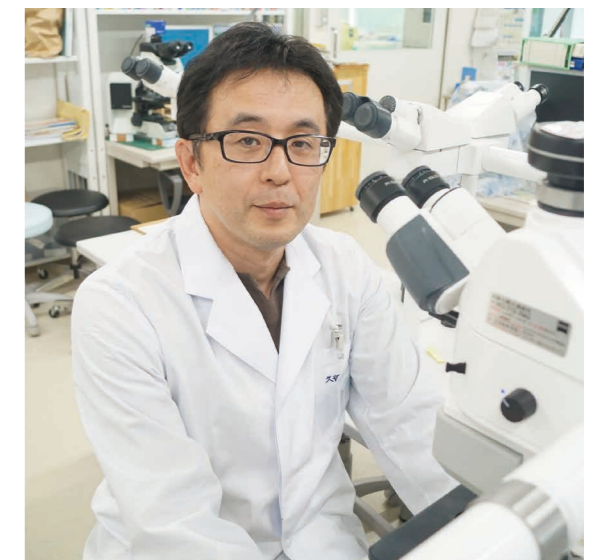
医療安全は、病院横断的な役割を担い、多くの診療科や部門、多職種の方々のお力添えが必要です。患者さん中心の軸を持ちながら、各部署との連携を密にとり、責任の重さから逃げず、患者安全と医療の質向上活動を皆様と行っていきます。今後は患者安全のさらなる発展に貢献できるよう精進し、よきチームを形成し、後進の指導を行いたいと思っております。ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 病理学講座病態病理学 教授就任のご挨拶

病理学講座病態病理学 教授 にいの だいすけ  
新野 大介

2022年8月1日付けで病理学講座病態病理学教授を拝命しました新野大介と申します。就任のご挨拶申し上げます。

私は1969年に福岡市で生まれ、筑紫丘高等学校、長崎大学医学部を経て、4年間血液内科を研修した後、病理の道に進みました。その後、血液病理に興味が出て、リンパ腫病理で有名な久留米大学病理学教室にて約8年間在籍し、多数のリンパ腫症例を診断するとともに、T細胞リンパ腫の研究を行ってきました。その後、長崎に戻り、2016年に長崎病理医育成・診断センターの教授に就任しました。臨床活動に加え、学生、研修医、若手病理医の教育、指導に携わり、病理医の育成を行い、加えて長崎県の離島の病理診断を行い、地域医療に貢献しました。その後、佐世保市総合医療センターでは診療科長として病理診断を行い、産業医科大学第2病理学教室の准教授を経て、島根大学にやってきました。



病態病理学教室では、器官病理学教室と協力し、大学病院の病理診断を充実させていくつもりです。現在、島根県内の病理医は不足しており、病理医の育成が急務であります。医学部生、研修医に病理医の魅力を伝え、体験してもらい、病理専門医を増やしていくつもりです。県内の拠点病院の常勤病理医も不足しており、補充していく予定です。また研究面では、私が今まで行ってきたリンパ腫の臨床研究を続けていくとともに、並河先生が続けてこられた基礎研究を引き継ぐ予定です。

今後、島根大学医学部、島根県内の病理が発展し、全国から病理医が集まるような教室にしていきたいと思っております。未熟者ではありますが、行動力には自信があります。微力ながら島根県のために尽力していく所存でありますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# ご報告

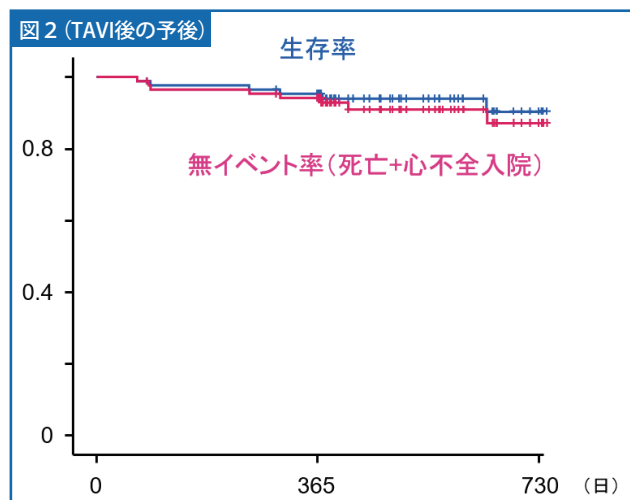
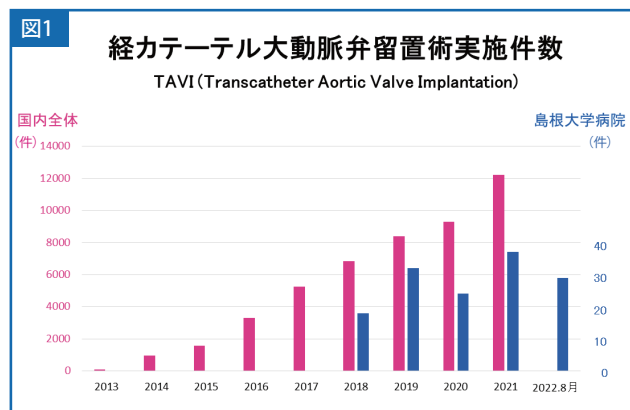
## TAVI (タビ:経カテーテル大動脈弁留置術) 開始後4年のご報告

総合ハートセンター  
えんどう あきひろ  
遠藤 昭博  
たなべ かずあき  
田邊 一明

重症大動脈弁狭窄症に対する低侵襲治療である TAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation) が 2002 年に世界で初めてフランスで施行され、今年 は 20 年の節目の年となりました。TAVI は当初の危険で不確実な治療から安全性と確実性が確立された治療へと変遷し、日本でも年間 1 万件以上施行されるようになり外科的大動脈弁置換術 (SAVR) を越えました。開始当初は SAVR が施行不能な症例に限定されていた TAVI の適応も良好な成績に伴い拡大の一途をたどり、現在では TAVI と SAVR は同等の弁置換術との評価に至り、年齢や本人の意向を考慮の上、症例毎に適切な方を選択することとされています。

当院で 2018 年に島根県内初の TAVI を開始して 4 年余りが経過しました。おかげさまで島根県内全体から多くの患者さんをご紹介いただき、これまでに 140 例の治療を行うことが出来ました (図 1)。全例で生体弁の適切な位置への留置に成功し、開胸手術への移行は 1 例もなく、30 日死亡も 0 % を継続しております。平均年齢は 85 歳 (中央値 86 歳) で治療開始当初と変わりありませんが、1 年生存率 95% (心死亡 0 %)、2 年生存率も 90% と極めて良好です (図 2)。

大動脈弁狭窄症による心不全の予後は非常に悪く、高齢者が一度肺水腫を起こして入院すると例え TAVI を施行しても多くの方が元の活動度までは回復しません。「元気で長生き」のためには大動脈弁狭窄症を早期に発見し、定期的に心エコーフォローしていくことが重要です。かかりつけの無症状の患者さんも年に一度はよく聴診していただき、収縮期雑音を聴取されましたら、まずは一度、重症度評価のため当院にご紹介いただけますと幸いです。



ホットライン TEL:070-5672-8109

問合せ先 循環器内科 (医局) TEL : 0853-20-2206



# ご報告



## 周産期ICUの看護スタッフの取り組み

B病棟 3階 産科・婦人科外来 看護師長 かずもり かずえ  
数森 和栄

周産期ICUには NICU : Neonatal Intensive Care Unit (新生児集中治療室)、GCU : Growing Care Unit (新生児回復室)、MFICU : Maternal Fetal Intensive Care Unit (母体・胎児集中治療室) があります。

NICU は予定日より早く生まれた赤ちゃん (早産児)、体重が小さく生まれた赤ちゃん (低出生体重児)、または何らかの疾患のある赤ちゃんを集中的に治療・管理する集中治療室です。

GCU は NICU で治療を受け、状態が安定してきた赤ちゃんが、引き続きケアを受け、おうちに帰る準備をしている赤ちゃんが入院しています。

MFICU は妊婦に重症妊娠高血圧症候群・重篤な合併症・多胎妊娠などのリスクがある場合や、胎児に切迫早産・疾患が予想される場合に、妊婦や胎児が入院する施設です。どのユニットも、本来であれば生まれてくるもしくは生まれた赤ちゃんに新しい生活に胸をワクワクさせているはずの時間を様々なストレスや緊張、不安とともに過ごすなければならない場所です。今はコロナ禍で面会もままなりません。

私たちは、そんな毎日の中でも、様々な取り組みを通じて皆さんに少しでもリラックスして過ごしていただくよう看護スタッフも頑張っています。スタッフ一同笑顔で皆さんを応援します!

問合せ先 総合周産期母子医療センター TEL : 0853-20-2573





# ご報告



## 救命救急センター臨時診察室(テント)を設置しました

救命救急センター センター長 いわた よしあき  
岩下 義明

コロナウイルス感染症の第7波は、島根県が日本に先駆けて大流行地となりました。報道等の通り、重症患者数は少ないものの、10～40歳代と若くて持病の無い方でも38度以上の高熱をだす方が多く、医療機関は診断および治療を求める患者さんが殺到しています。

当院では、県内のコロナおよび非コロナの重症患者さんへの医療提供を中心としつつ、地域の医療ニーズにお応えするため、より多くの患者さんの診療を行うための、臨時診察室(テント)を設置しました。テント内には、エアコンと陰圧装置を完備し、安全な医療を提供できる体制を整備しています。

状況により電話診療、臨時診察室での診療などを適宜調整させていただきます。医療体制を維持し1人でも多くの医療を必要とする方に医療を提供できるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

問合せ先 救命救急センター TEL: 0853-20-2152



# ご報告

## 「2022世界肝炎デー」啓発活動を行いました

肝疾患相談・支援センター センター長 とびた ひろし  
飛田 博史

7月28日は世界肝炎デー(7月25日～7月31日は肝臓週間)でした。

当院は肝疾患診療連携拠点病院として島根県から指定を受け、肝疾患相談・支援センターを設置し、主にB型肝炎やC型肝炎に関する相談、医療情報の提供、講演会等を行っています。

この度、2022年度肝炎対策事業の一環として、啓発ポスター(図1)を院内に掲示し、肝臓週間には一部のスタッフが啓発マスク(写真1)を着用して啓発活動を行いました。

また、肝臓週間に合わせてTSKさんいん中央テレビ(テレビ塔)を、肝炎デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップ(写真2)しました。この他に啓発TVCMを制作し、TSKさんいん中央テレビで放映しました。啓発CMは、当院外来モニターにて放映中です。(写真3)

なお、当センターでは肝臓病教室・家族支援講座を年に数回開催しています。最新治療や日常生活の注意点など肝疾患に関する知識向上を目的とした内容や、ご家族にも役立つ情報を盛り込んだ講演となっております。コロナ禍においては当センターHP上に動画配信形式で開催しています。ぜひご視聴ください。

一人でも多くの方が肝炎ウイルス検査を受検し、陽性者の受診と受療に結び付けられればと考えています。当センターとしましても患者さんやご家族の悩みを解消できるよう、引き続き努力してまいります。

今後も肝疾患診療連携拠点病院の活動に、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

問合せ先 肝疾患相談・支援センター  
受付時間 9:00～16:00  
TEL:0853-20-2721



図1



写真1



写真2

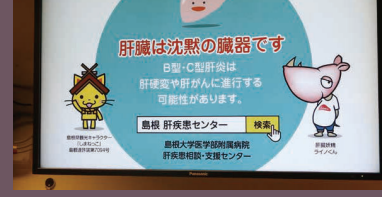


写真3



# お知らせ



## 非常時の食事、考えてみましょう

栄養治療室 栄養士 やた 里さこ  
矢田 里沙子

現在、日本は地震だけでなく、大型台風や豪雨などの自然災害も多く発生しており、ライフラインや物流が停止した場合に備えなければなりません。

当院ではそのような状況でも入院患者さんへ食事が提供できるよう、3日分(9食分)の非常食を用意しています。1食目はエレベーター停止時にもすぐに患者さんへ提供できるよう各病棟に配置し、それ以降は浸水に備えてAB病棟の2階に保管しています(写真1)。非常食は、栄養の偏りがなく、エネルギー源となる米やパンなどの主食、たんぱく質やビタミン・ミネラルが補給できる肉や魚のおかず、野菜ジュースなどの副食を組み合わせた内容となるよう準備をしています(写真2)。

みなさんはどのような非常食を備蓄されていますか？

職場や家庭において、日頃から飲料水や食料品を準備し、災害が起きた際に体調を崩さないためにも、栄養のことも考えながら準備してみてください。また、賞味期限や消費期限を確認し、定期的に日常の食事に取り入れることで無駄なく備えることもできます(ローリングストック※)。

新型コロナウイルス感染症のために人員不足となり、食事の提供が難しくなるような場合にも、非常食を提供させていただく場合もございます。ご理解いただきますようお願いいたします。

※ローリングストックとは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。



写真1

非常食保管庫の写真



写真2

非常食の一例

問合せ先 栄養治療室 TEL: 0853-20-2074



# お知らせ

## コロナ禍の退院支援の工夫

地域医療連携センター センター長 たなべ かずあき  
田邊 一明  
看護師長 やすだ まき  
安田 真紀

地域医療連携センターでは、患者さんのスムーズな受け入れと退院に向けた支援をおこなっています。住み慣れた場所で継続性のある医療・看護・介護などを安心してうけていただくことを目指しています。

長引くコロナ禍にあり、退院調整には様々な工夫が必要になってきています。面会禁止で患者さんのADLが確認できず自宅退院に踏み切れないご家族には、リハビリテーション部の協力を得て、リハビリの様子をビデオ撮影しご家族に見ていただくことで安心に繋がるようなサポート、来院できないご家族にはこまめな状況の連絡などを行っています。

また、退院後も創傷処置など医療処置が必要な患者さんに対しては、病棟看護師が個別のパンフレットを作成したり、指導の場所・時間などの調整や、指導の様子を患者・家族さんのお持ちのスマートフォンで動画撮影し、自宅に帰ってからも何度でも確認できるようなサポートを必要に応じておこなっています。

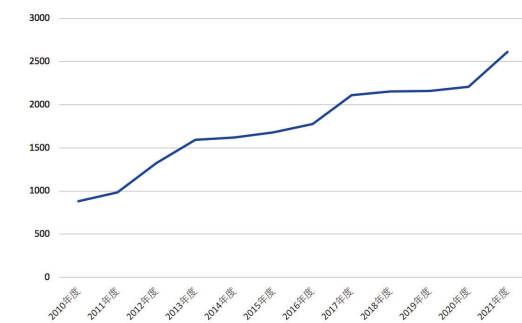
ご家族、地域支援者の方との退院前カンファレンスでも感染対策をしっかりと行った上で開催しています。参加者をできるだけ限定し、広い会議室の確保、支援者や家族、患者さんをリモートでつなぎ、患者さん自身が参加して一緒に退院後のことを決めています。

リモートでカンファレンスを行うことによって、時間の調整がしやすくなり移動に時間を要していた西部地区などの訪問診療医師や訪問看護師の参加がしやすくなった等のコメントもいただいています。

コロナ禍ではありますが、院内のスタッフ、院外の支援者と連携を図り一人ひとりの患者さんを大切にしながらサポートを続けています。



リモートカンファレンスの様子



新規退院支援依頼件数推移

問合せ先 地域医療連携センター TEL: 0853-20-2620





島大病院ニュース 2022年9月

# お知らせ



島大病院ニュース 2022年9月

# お知らせ



## 入退院管理センターのご紹介

入退院管理センター	センター長	ひら 比良	えいじ 英司
	看護師長	さの 佐野	さとみ 智美

入退院管理センターでは入院前の窓口として、入院予約をされた外来患者さんの問診、病床管理、入退院時の患者さん対応、オンライン面会の対応、トリアージ検査センターでの検査介助など様々な業務を行っています。



比良センター長

入退院管理センタースタッフ

問診では身体症状、苦痛の有無、検査や治療に対する思い、入院前の生活環境などの情報収集を行った後に入院生活の説明をさせて頂いています。問診で聴取した情報は、入院病棟、地域医療連携センター、栄養治療室など多部門と共有し、入院中だけでなく、入院前から退院後までの療養環境を整える支援を行っています。

病床管理では入院、転棟、退院に関する業務などを病棟看護師と連携を図り行っています。検査や治療の内容に応じた病床を選定し、なるべく患者さんのご希望に沿うように調整をしています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年11月から入院予定患者さんに対する入院前の新型コロナウイルス抗原定量検査が始まりました。トリアージ検査センターで安全に検査が行えるように検査時の介助を行っています。

当センターでは、入院前からの介入を通して、患者さんが安全な療養環境で安心して入院生活を送り、退院することが出来るようサポートさせて頂いています。

問合せ先 入退院管理センター TEL: 0853-20-2512

## 中国地方で初めて

## 難治性皮膚潰瘍にPRP処置を開始しました

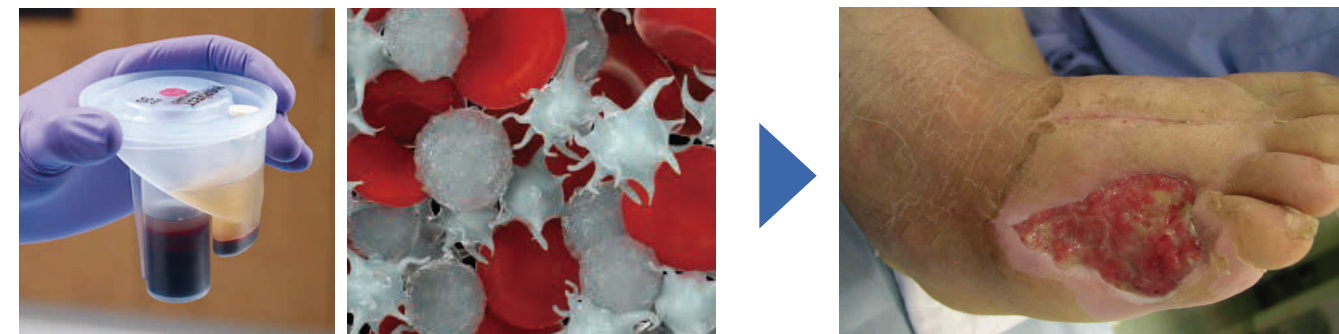
形成外科 准教授 はやしだ けんじ 林田 健志

形成外科では、外傷や慢性潰瘍となった創傷の治療を行っています。近年は創傷を治すための薬剤や、デバイスの発達が進み、キズあとをより目立たなくすることも可能となってきています。

しかしながら難治性潰瘍の代表に、閉塞性動脈硬化症に伴う足潰瘍があります。この足潰瘍の決定的な治療は切断術しかなく、新規治療法の適用が望まれていました。そのため、2020年診療報酬改定によりPRP (Platelet Rich Plasma: 多血小板血漿) 処置が保険適用となり、施設基準に適合した施設のみで、この第3種再生医療を行うことが可能となり、当院でも中国地方で初めてこの治療を開始しました。

PRPは患者本人の血液を採取するのみという最小の侵襲で、濃縮処理後に移植を行うことと、潰瘍の修復や炎症の沈静化を認めることが確認されています。国内トップレベルの形成外科医療を提供できる体制が整いつつあり、地域の先生方にはこれまでと同様な、ご指導とご支援を今後もいただければ幸いです。

### PRP処置のイメージ



抽出したPRP

PRPを潰瘍局所に投与

問合せ先 形成外科 外来 TEL: 0853-20-2382



2022年9月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2022年9月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

## オスラー病相談窓口設置のご案内

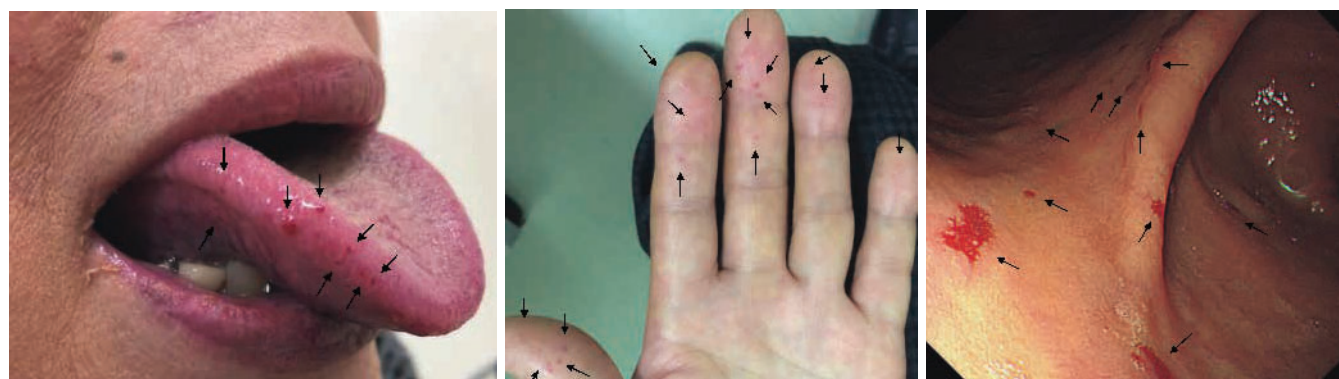
循環器内科 教授 **たなべ かずあき**  
 オスラー病外来担当 臨床教授 **田邊 一明**  
**おおやけ のぶゆき**  
**公受 伸之**

2017年1月よりスタートしたオスラー病外来ですが、これまで島根県全域の多数の医療機関、多数の診療科の先生からご紹介をいただきましたことをまず感謝申し上げます。先日は東部の循環器専門の先生より、オスラー病の妊婦さんの里帰り分娩についてのご相談を受けました。一方、オスラー病を心配されている患者さんから内科外来へ直接電話がかかることもあり、それに対してこれまで十分に対応できていませんでした。

そこでこの度、直接担当医に相談できる窓口を設けましたのでご報告いたします。外来紹介はハードルが高いような症例の診断や治療、家族への対応などに関する先生方からのご相談のみならず、患者さんからの直接のご相談も受け付けますので、お気軽にご連絡ください。

指定難病であるオスラー病は、乳幼児期の突然死、脳梗塞・脳膿瘍・脳出血、妊産婦死亡、心不全、肺高血圧症、肝不全、重症貧血など、病変に起因する合併症リスクが幅広い年齢層で存在します。オスラー病外来は、患者の9割が未診断である現状を改善し、重篤な合併症を予防、QOLを維持することを目的とし、各専門医と連携して診療にあたります。

ご開業や病院勤務の先生方や繰り返す鼻出血等でお困りの患者さんからのご相談をお待ちしております。何卒、よろしくお願いいたします。



左から舌・指・胃粘膜に毛細血管拡張病変を認める(矢印)(日本臨床80巻増刊号7、2022)

表 オスラー病診断基準: 4項目中3つ以上該当で確定、2つで疑い、1つで可能性低い

鼻出血	自然に繰り返す
毛細血管拡張症	多発性、特徴的部位(顔面・口腔内・口唇・舌・鼻・手指)
内臓病変	消化管毛細血管拡張症、肺・肝臓・脳・脊髄等の動静脈奇形
家族歴	本診断基準に基づく1親等のオスラー病家族歴

**オスラー病外来**  
 毎月第4金曜日午後(要予約)  
**オスラー病相談窓口**  
**循環器内科 資料室**  
**TEL 0853-20-2249**



# お知らせ

## 「しまねCOMMONS」開設のお知らせ

環境保健医学講座 教授 **なごし きわむ**  
**名越 究**

島根県と島根大学医学部環境保健医学講座は、島根県内の医療等専門職の皆さまが日頃からよく関わるコモンディジーズの最新情報を判りやすくまとめたe-ラーニングを開講しました。

「会場が遠い!」「この日じゃなかったら!」「もう1回聞いてみたい!」「そもそも忙しすぎる!」いろいろな声にお応えして、いつでも、どこでも、何度でも、短時間に受講できる講座です。内容は、島根大学医学部の臨床講座の協力により、疾病の基礎知識や治療、生活上の注意点など幅広く取り上げています。動画はひとつ15分程度にまとめられていて、自由な順序で視聴できます。1つの単元を完了していただくと、修了証を発行いたします。

講座の内容は順次更新していき、ご登録いただいたメールアドレスに最新情報を提供します。県内でご活躍いただく多くの皆さまにご活用いただき、県民の健康長寿につながることを願っています。

しまねCOMMONS

しまね健康情報e-ラーニングシステムに関するお問い合わせ  
 環境保健医学講座ヘルスアップ担当 TEL 0853-88-3064

「しまねCOMMONS」トップページ

島根県内の医療等専門職のみならず、お役立ちe-ラーニングシステム

**「しまね COMMONS」**  
 (いまさら聞けないコモンディジーズの最新情報)

島根大学医学部と島根県が共同で、専門職のためのe-ラーニングを開講しました。  
 「会場が遠い!」「この日じゃなかったら!」「もう1回聞いてみたい!」...そんな声にお応えして、いつでも、どこでも、何度でも、受講できる講座です。

内容は、疾病の基礎知識や治療、生活上の注意点など幅広く構成しており、気になったときに、見たいところだけ受講することも可能です。すべて視聴していただく、確認テストで理解度をチェック、修了証も発行します。

講座の内容は順次更新、ご登録いただいたメールアドレスには最新情報を送信します。県内でご活躍いただく多くの皆さまに受講いただき、県民の健康長寿につながることを願っています。

島根大学医学部環境保健医学講座  
 島根県健康福祉部健康推進課

当サイトでは、島根県内の国民健康保険が実施する保健事業にご協力いただく専門職の人材育成を目的としています

Copyright © All Rights Reserved.





# お知らせ

## 新しい超音波装置を導入しました！ ～甲状腺超音波検査体制の紹介～

内分泌代謝内科 助教  
検査部 副臨床検査技師長  
主任臨床検査技師

のつ まさかず  
野津 雅和  
おかざき りょうた  
岡崎 亮太  
うえがき まゆこ  
上垣 真由子

超音波検査は、簡易で患者さんへの侵襲が少ないため、近年各種診療ガイドラインや診断基準に積極的に取り入れられています。この度、新規超音波診断装置「Aplio i700 Prism Edition」を導入致しました(写真1)。

この度導入された機械は生理機能検査室に配置され、頸動脈超音波検査、下肢静脈超音波検査、乳腺超音波検査など主に体表および血管超音波検査で幅広く使用されています。

内分泌代謝内科では本装置を用いて、甲状腺、副甲状腺疾患の超音波検査を行っています。現在、甲状腺専門医1名、甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医1名、体表超音波検査士2名が在籍し、国内の医学部附属病院としては屈指となる件数の超音波検査を実施しています(図1)。

毎週水曜日の午後、当科医師、県央および県西部からの修練医師、超音波検査士を含む臨床検査技師が同時に検査に臨むことで、超音波走査法、評価法、疾患理解について職種間/地域間で知識を共有し、県内の甲状腺診療レベルの向上を図っています。実際に、当院で技術習得をした医師および臨床検査技師が県内外の様々な施設で甲状腺超音波検査を担っています。また、甲状腺穿刺細胞診は病理部の細胞検査士と協力して実施することで、検体の適切な取り扱いや最小限の検査回数で評価を行えるよう工夫しています。

本装置の特徴として、高周波プローブ、低流速で血流を描出できる技術を搭載しているため、深部かつ小さな副甲状腺腫瘍の描出に非常に有用です(写真2)。

これからも、圏域の甲状腺診療はもちろん、県内における難治性甲状腺・副甲状腺疾患の診療を適切に供給できるよう努力していきたいと考えています。

写真1



今年度導入された「Aplio i700 Prism Edition」

図1 当院における甲状腺超音波・細胞診件数

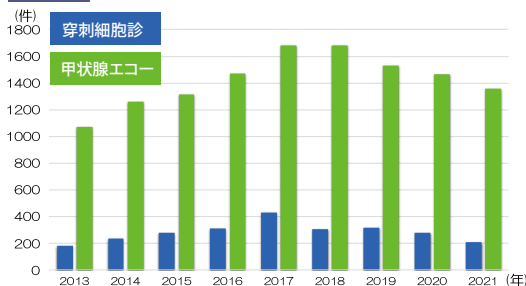
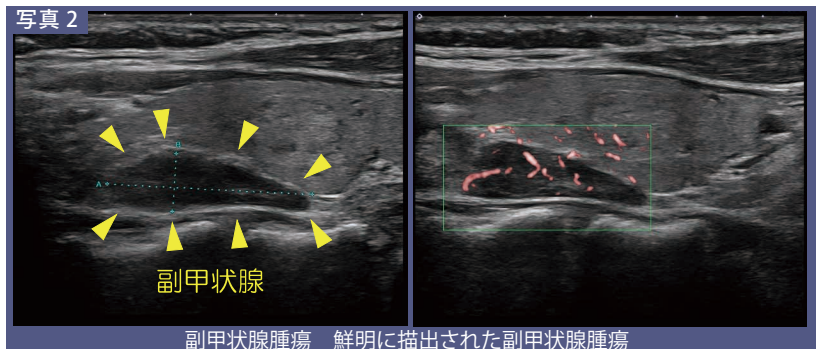


写真2



副甲状腺腫瘍 鮮明に描出された副甲状腺腫瘍

問合せ先 内科学講座 内科学第一医局 TEL : 0853-20-2183

